

📞 問い合わせ先

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ⑥



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

第1次月山 富田城の戦い

戦国時代、中国地方では出雲を拠点とする尼子晴久と山口を拠点とする大内義隆が争っていました。天文12(1543)年、隆景の父・毛利元就は大内氏に付いて、尼子氏の月山富田城(現在の安来市)を攻めました。

この戦いに大内氏は敗れ、毛利軍は全滅の危機にさらされましたが、かろうじて本拠のある郡山(現在の安芸高田市)に帰ることができました。

第2次月山 富田城の戦い

元就は、第1次月山富田城の戦いの後、周防・長門(現在の山口県)を攻略して大内氏を滅ぼ

▶ 月山富田城跡



し、永禄5(1562)年、次男・吉川元春、三男・小早川隆景ら1万5千人の大軍を率いて、尼子氏のいる出雲に向かいました。永禄6(1563)年、月山富田城の出城であった白鹿城を攻め

落とし、永禄8(1565)年、毛利軍は月山富田城を攻撃し始めました。

月山富田城には城内に通じる道が3つあったため、正面の御子守口から元就、南側の塩谷口から元春、北側の菅谷口から隆景の軍勢が攻めました。



▶ 第2次月山富田城の戦いにおける毛利軍の配置

この戦いの途中、元就は病に倒れましたが、戦国屈指の名医曲直瀬道三の治療を受けて回復し、永禄9(1566)年に尼子氏を滅ぼしました。こうして、元就は中国地方最大の戦国大名となりました。

医師 水野松林軒と曲直瀬道三

第2次月山富田城の戦いの後、隆景は医師の水野松林軒をかりつけ医として出雲から三原へ連れて帰り、西町に居住させました。

松林軒は道三の弟子になって最新の医学を学び、天正11(1583)年に道三直筆の医学書「啓迪集」を贈られました。



▶ 啓迪集(全8巻)
本文は漢文で書かれている

この啓迪集は昭和30(1955)年に広島県重要文化財に指定されました。現在は市立中央図書館に所蔵しています。



文化課
☎0848-649234

三原市の人口(7月31日現在)

※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	43,982 世帯 (-201)
人口	96,103 人 (-1,221)
男	46,029 人 (-571)
女	50,074 人 (-650)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索

税などの納期(普通徴収)

- 国民健康保険税(第3期)
 - 介護保険料(第3期)
 - 後期高齢者医療保険料(第3期)
- 納期限 10月2日(月)まで
夜間収納窓口(19時まで)
毎週木曜日

航空機の騒音測定結果(7月分)(Lden)

- ▶正広局(本郷町善入寺正広)=48.5
- ▶本郷局(本郷町船木川西上)=52.5

あ・と・が・き
つさ祭りは満喫できましたか。踊り・花火など、それぞれ楽しみ方ができるお祭りですが、私はというと祭りの雰囲気を感じながら3日間、写真撮影を楽しみました。8年ぶりの撮影でしたが、広報係2人の力を借りてなんとか広報誌面を飾ることができました。▼花火の写真に写る三原城天台跡・石垣のライトアップは、毎週金・土曜日に見ることが出来ます。情緒ある風景を眺めながら夜の散策を楽しんでみませんか(H)